

# 仙台高専なとりライブラリーカフェの実施と 継続的发展へ向けた取り組み

岡崎久美子<sup>\*1</sup>, 窪田 眞治<sup>\*1</sup>, 鈴木 知真<sup>\*2</sup>, 佐藤 友章<sup>\*3</sup>, 北島 宏之<sup>\*4</sup>, 塚田由佳里<sup>\*5</sup>,  
宮崎 義久<sup>\*1</sup>, 荒 孝二<sup>\*6</sup>, 坂本 香代<sup>\*6</sup>, 国分 宏樹<sup>\*6</sup>, 遊佐 梨江<sup>\*6</sup>

## Library Café Implementation and Development at the College Library of NIT Sendai, Natori

Kumiko OKAZAKI, Shinji KUBOTA, Kazuma SUZUKI, Tomoaki SATO, Hiroyuki KITAJIMA,  
Yukari TSUKADA, Yoshihisa MIYAZAKI, Koji ARA, Kayo SAKAMOTO, Hiroki KOKUBUN,  
and Rie YUSA

This paper describes how we conducted the seventh and eighth Sendai Kosen Natori Library Café (Library Café at the Natori campus library of National Institute of Technology, Sendai College) to discuss what it should and could be. The event has been held annually in October since 2016. The latest café event is followed by a series of events, Library Talk, arranged specially for students at our college. We investigate the operating procedures for our activities at the Natori campus library with the aim of continuing the development of future initiatives.

KEYWORDS: book introduction, community, Library Talk, Natori City Library, student involvement

### 1. 本論の目的

本論は、仙台高等専門学校（以下、仙台高専）名取キャンパス図書館が開催している仙台高専なとりライブラリーカフェ（以下、ライブラリーカフェ）の4年目の運営について振り返るとともに、その継続実施のあり方と発展のための取り組みについて検討するものである。

### 2. 令和元年度ライブラリーカフェの実施状況

#### 2. 1 実施の概要

本行事は、学生・教職員および地域の市民を主な

対象として、仙台高専高専祭の1日目と2日目に、これまで6回開催してきた。実施状況は岡崎他(2017)<sup>1)</sup>、岡崎他(2018)<sup>2)</sup>および岡崎他(2019)<sup>3)</sup>のとおりである。講師を招き、本に関連する話題について話してもらっている。

令和元年度は以下のように実施し、71名の参加者を迎えた。

令和元年度 第1回 仙台高専なとりライブラリーカフェ（通算第7回）概要

日時: 10月26日(土) (仙台高専 高専祭 第1日目)

11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台高専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師: 千葉幸一郎先生 (仙台高専総合工学科 N5 ユ

\*1 総合工学科 N5 ユニット (N5 Unit, Dept. of General Engineering)

\*2 総合工学科 N1 ユニット (N1 Unit, Dept. of General Engineering)

\*3 総合工学科 N2 ユニット (N2 Unit, Dept. of General Engineering)

\*4 総合工学科 N3 ユニット (N3, Unit Dept. of General Engineering)

\*5 総合工学科 N4 ユニット (N4, Unit Dept. of General Engineering)

\*6 総務課 (General Affairs Division)

岡崎久美子, 窪田 眞治, 鈴木 知真, 佐藤 友章, 北島 宏之, 塚田由佳里, 宮崎 義久,  
荒 孝二, 坂本 香代, 国分 宏樹, 遊佐 梨江

ニット, リベラルアーツ教育推進室)

演題: そうだ南都, 行こうー奈良高専 出向報告ー

令和元年度 第2回 仙台高専なとりライブラリーカフェ (通算第8回) 概要

日時: 10月27日(日) (仙台高専 高専祭 第2日目)

11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台高専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師: 福村 裕史先生 (仙台高専校長)

演題: パラレルワールドをめぐって~私的読書スタイルの紹介~

その他: 読書コンクール表彰式を実施 (10:30~10:45, 図書館2階)

当日の配付物

- 1) 「仙台高専なとりライブラリーカフェ 概要」
- 2) 「仙台高専なとりライブラリーカフェ」 ちらし
- 3) 「令和元年度仙台高専なとりライブラリーカフェアンケート」(記入用バインダーと鉛筆を添えて配付)
- 4) 「仙台高専名取キャンパス図書館利用案内」
- 5) 緑茶, 紅茶, またはコーヒーのペットボトル
- 6) (封筒)

配付資料には, ライブラリーカフェの概要に加え, 図書館の利用促進を意図して本校図書館の利用案内も含めている。

飲み物には, これまでの緑茶や紅茶等に加えコーヒーも用意し, 選んでもらった。

## 2. 2 事前周知および当日の状況

### 2. 2. 1 事前周知

学内外への事前周知は, 昨年とほぼ同様の内容で規模を拡大して行った。ポスターやちらしによる周知を, キャンパス内への掲示, 保護者懇談会・入試説明会等における配付, 市内の諸施設や近隣中学校等への郵送により行った。学校と図書館のウェブサイトの「お知らせ」のコーナーに案内記事を出し, 図書館の蔵書検索サイトにはライブラリーカフェで紹介される本の書誌情報を掲載した。また, 名取市の広報誌『広報なとり』に記事を掲載してもらった。図書館には, 図1に示すように, ライブラリーカフェ特設コーナーを設置した。



図1 ライブラリーカフェ特設コーナーの展示

### 2. 2. 2 当日のライブラリーカフェの状況

今回も講師には興味深い話をしていただいた。以下はそれぞれの回で紹介された本の一覧である。なお, 入手しにくいものには文庫版の情報を, また, 洋書の場合は, その翻訳があれば翻訳書の情報を付記している。

令和元年度第1回で紹介された主な本

『古寺巡礼』 和辻哲郎, 岩波書店 (岩波文庫)

『大和路・信濃路』 堀辰雄, 新潮社 (新潮文庫)

『大和古寺風物誌』 亀井勝一郎, 新潮社 (新潮文庫)

令和元年度第2回で紹介された主な本

『日本文学全集 18 芥川龍之介』 河出書房 (『侏儒の言葉・西方の人』 芥川龍之介, 新潮社 (新潮文庫))

『天体による永遠』 オーギュスト・ブランキ; 浜本正文訳, 岩波書店 (岩波文庫)

*The World of Physical Chemistry*, Keith J. Laidler, Oxford University Press

*Antoine Bloyé*, Paul Nizan, Monthly Review Press (『アントワヌ・ブロワイエ』 ポール・ニザン; 篠田浩一郎訳, 晶文社)

*Man in the Dark*, Paul Auster, Faber & Faber (『闇の中の男』 ポール・オースター; 柴田元幸訳, 新潮社)

『世界の一元化と天文学の改革 (世界の見方の転換3)』 山本義隆, みすず書房

『無限、宇宙および諸世界について』ブルーノ；清水純一訳，岩波書店（岩波文庫）

Ignorance, Milan Kundera, Harper Perennial（『無知』ミラン・クンデラ；西永良成訳，集英社）

『存在の耐えられない軽さ』ミラン・クンデラ；千野栄一訳，集英社

『ロボット（R.U.R.）』カレル・チャペック；千野栄一訳，岩波書店（岩波文庫）

『いろいろな人たち：チャペック・エッセイ集』カレル・チャペック；飯島周編訳，平凡社

当日の様子を図2および図3に示す。聴衆は貴重な資料の提示にも大いにひきつけられ、クイズへの参加を楽しんだ。質疑の時間には質問やコメントが多く寄せられた。



図2 ライブラリーカフェ 第1回の様子



図3 ライブラリーカフェ 第2回の様子

## 2. 2. 3 図書館行事・企画との関連

当日はいくつかの図書館企画を併せて実施した。読書コンクール表彰式（第2日目のみ）、図書館ツアー、古本市、図書館公開などである。

読書コンクール表彰式は、開催時間を変更し、ライブラリーカフェ開催前に実施した。このことにより、参加者は、ライブラリーカフェの終了後に講師を囲んでさらに質問をし、議論を楽しむことができた。予定時間を超えて対応いただいた講師に感謝したい。参加者のアンケート回答時間も確保できた。

また、会場付近では、ライブラリーカフェ特設コーナー以外に以下の常設・特設の企画展示を実施していた。

- 1) 読書コンクール作品展コーナー（令和元年度分）：学生が作成したポップカードと紹介本の展示
- 2) ブックハンティングコーナー（令和元年度第1回分）：学生が書店に出向き選んだ本の展示
- 3) コース別おすすめ本：オープンキャンパス時に「未来の高専生へのおすすめ本」としてリストアップした本の展示
- 4) ユニット推薦図書・授業参考図書
- 5) 「科学道 100冊」コーナー<sup>注1)</sup>
- 6) 男女共同参画推進室おすすめ本

企画展示コーナーの本の一部には、学生が作成したおすすめ図書紹介カードが添えられている。図書館で実施している「図書館ポイントカード企画」<sup>注2)</sup>に参加する形で提出された学生作品である。

これらの企画展示や図書紹介カードの展示はすべて本校学生の利用を意図して行っているものである。しかし、1)、2) や学生作成の図書紹介カードなどは本校の学生の読書傾向が表れるところであり、地域の方に本校の学生の一面を知って楽しんでもらうのに役立っている。

高専祭の2日間で500人を超える来館者があった。終了後にはライブラリーカフェ特設コーナーの本の貸出とライブラリーカフェを録画したDVDの館内貸出を開始した。

## 2. 3 令和元年度の新たな試み

主な準備等は前年度の内容を引き継いだり、いくつかの新たな試みを行った。以下に令和元年度に新たに行った試みのうち主なものを示す。

岡崎久美子, 窪田 眞治, 鈴木 知真, 佐藤 友章, 北島 宏之, 塚田由佳里, 宮崎 義久,  
荒 孝二, 坂本 香代, 国分 宏樹, 遊佐 梨江

### 2. 3. 1 学生によるポスターデザイン

令和元年度初の試みとして、事前周知用のポスターとちらしのデザインを本校建築デザイン学科4学年の学生に提案してもらった。学生に関わってもらうことで、本校学生の関心をひきつけたいと考えた。

学生に夏季休業前に依頼し、案を受領後には、学生と数度の打ち合わせを持って調整を行った。この過程では学生もポスターの担当者も多く、時間と労力を必要とした。人目を引く案で本年度の周知を行うことができ、また、本校でデザインを専攻する学生に関わってもらい活躍の場を提供できたことは収穫であった。



図5 名取市図書館ティーンズコーナーにおける周知

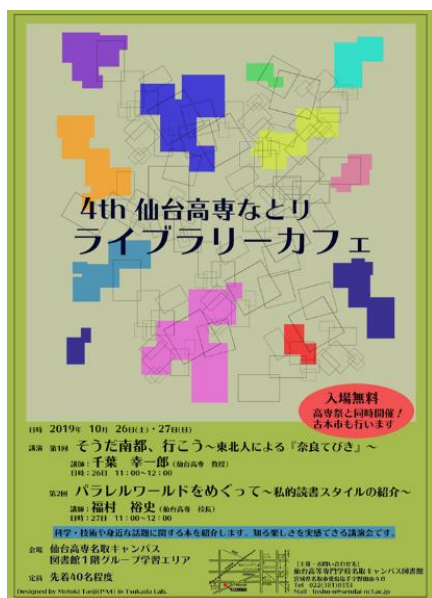


図4 本校の学生によりデザインされた新ポスター

### 2. 3. 2 地域連携活動の活用

令和元年度は、名取市図書館のティーンズコーナーで周知する機会を得た。

ティーンズコーナーは名取市図書館の新館移転を機に新たに始められたコーナーであり、図書館3階の学習室近くに設けられた。その第1回の展示の依頼を本校が受け、地域連携活動の一環として学生図書委員に担当してもらうことにした。学生図書委員の有志学生が10月2日(水)に展示を行った。その際に、コーナーにイーゼルを設置し、行事周知のためのポスターの掲示とちらしの設置を行った<sup>注3)</sup>。

### 2. 3. 3 会場レイアウトの変更

会場となる図書館1階のスペースを有効に活用するために、会場のレイアウトを変更した。これまで玄関ホールの正面に講師用モニタを設置していたが、試行を繰り返し、正面右の窓側に設置することとした。これにより、会場エリアの左に隣接する雑誌コーナーも利用することが可能になった。座席エリアを拡張することがこれまでよりも容易になり、また、会場にある柱によって生じていた死角の影響を幾分か減らすことができた。正面の壁面ホワイトボードは全面を演題掲示に活用することができた。

### 2. 3. 4 大型テレビの使用

令和元年度は、講師の講演スライド投影用として、新しく設置された65インチの大型テレビを使用することができた。これは地元企業から本校に寄贈され、高専祭の直前に図書館に設置されたものである。液晶画面ではレーザーポインターのライトが吸収され見えにくいため、講師には指示棒を使用してもらった。

既存の50インチモニタも併用した。こちらは会場後方に配置し、会場の後方や死角にあたる位置にも聴衆用座席を追加で配置できるようにした。会場後方に設置しているビデオカメラの撮影画面を投影した<sup>注4)</sup>。

### 3. 参加者アンケートの結果

令和元年度の参加者対象アンケート<sup>注5)</sup>の結果は

以下のとおりとなった。各回の終了後に実施し、合計で45枚を回収した。概要は以下の通りである。

参加者アンケート（令和元年度第1回・第2回）

1) 所属について

本学学生	3
本学教職員	8
保護者	21
一般	6
一般（卒業生）	2
一般（大学生）	1
一般（高校生）	0
一般（中学生）	3
その他	1

参加者は、学外からの参加者が7割強を占め、特に保護者が全体の約半数を占めている。この傾向は前年度とほぼ同様であることから、保護者に一定のニーズがあると言える。

2) ライブラリーカフェの内容について

とてもよかった	24
よかった	12
普通	8
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
回答なし	1

参加者層の属性がこれほど多様でありながら、多くの参加者が内容に満足している状況が読み取れる。

3) 開催時期や場所について

時期 早い	0	ちょうどよい	45	遅い	0
時間帯 早い	0	ちょうどよい	43	遅い	1
回答なし	1				
長さ 短い	3	ちょうどよい	39	長い	3
場所 狭い	0	ちょうどよい	45		

時期などの開催条件は、参加者からはほぼ適切との回答を得た。

4) ライブラリーカフェ開催情報の入手先について

『広報なとり』10月1日号	5
仙台高専ホームページ	3
図書館ホームページ	2
ちらし	5
ちらし（高専祭受付）	4
ちらし（入試説明会）	1
ちらし（保護者懇談会資料）	9

ポスター	3
ポスター（学内）	0
ポスター（名取市内）	0
ポスター（仙台市内）	0
知人・友人の紹介	0
昨年の参加者への案内	3
無回答	2
その他	13

複数を選択している回答もあり、合計数は回収数とは一致しない。保護者懇談会や高専祭総合受付等で配付されたちらしが最大の情報源である。市の広報誌『広報なとり』や、本校または図書館のウェブサイトから情報を得ている参加者もいる。その他の回答のうち、4名はオープンキャンパスを挙げた。たまたま図書館に来たら開催されており参加したという回答も見られた。広報は多様な手段を並行して活用していく必要があると言える。

5) 今後のライブラリーカフェへの参加について

ぜひ参加したい	13
参加したい	22
どちらともいえない	7
あまり参加したくない	0
参加したくない	1
無回答	2

今後のライブラリーカフェにも参加したいという回答が多くあった。

6) ライブラリーカフェで取り上げてほしいテーマについて

- ・各先生方の多趣味な話題
- ・日本建築史（京都、奈良、鎌倉のいずれか）
- ・名取の里は中世（古代から）の歴史に恵まれています。余り世には知らしめられていませんが、発掘しながら高専のアカデミックな考察を含めたテーマが希望です。
- ・専門書の読み方、読み解き方などを先生方ほどのあたりに注目するのか？などを話していただけると大変参考になります

取り上げてほしいテーマとして多くの回答を得た。上記はその一部で表記は原文のままである。今後の講師依頼に際しては参考にしていきたい。

## 7) 意見と感想

### (第1回)

- ・千葉先生の話し方, 紹介の仕方が上手で, 楽しく聞かせていただきました。
- ・駅近(東口より歩きで15分か...)にこれ程のライブラリーが公開(一般人に)されているとは, 名取市の財産として自慢できます。

### (第2回)

- ・校長先生の別な一面を見せて頂き, 好奇心からなるものであろう知識の広さに感心させられました。もっと私も勉強しなければ...楽しい世界でした。
- ・大変, 興味深い内容でした。校長先生というお立場とは思えない(!?)パラレルワールド全開の内容でおもしろかったです!!

意見と感想を自由記述式で回答してもらったところ, このような回答があった。抜粋し原文のまま引用している。講師の先生方に感謝するばかりである。

## 4. ライブラリーカフェの展開: ライブラリートークの実施

ライブラリーカフェ継続発展のための試みとして, 令和元年度に新たに関連行事を計画した。行事名はライブラリートークとし, 学内行事と位置づけ, 一部を既に実施した。

本行事を企画した目的は次の2点である。

第一は, 本校で自主学習のために確保されている4校時の時間帯の有効活用である。この時間帯はさまざまな活用がなされているが, 学生が楽しめるような企画を図書館からも提案したいと考えた。

第二は, ライブラリーカフェに参加できなかった学生にライブラリーカフェと同様の楽しさを体験してもらうことである。現在のところ, ライブラリーカフェの参加者は, 保護者や地域市民, 卒業生が大半を占めている。本校の学生や教職員は, 高専祭当日は複数の役割を担っているため, 参加が難しい場合が多い。そこで, 試行として通常授業の期間に同様の行事を催してみることとした。

開催場所はいずれもライブラリーカフェと同じであり, 時間は4校時時間帯内の30分間である。ありがたいことに下記の3名の先生に講師を引き受けていただくことができた。

令和2年1月16日時点での計画を以下に示す。

図6に示すポスター等で学内周知を図っている。

## 令和元年度ライブラリートーク

### 第1回

日時: 令和2年1月16日(木) 14:40~15:10 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台大専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師: 福村 裕史先生(仙台大専校長)

演題: 光と化学-光学顕微鏡技術の最前線-

### 第2回

日時: 令和2年1月20日(月) 14:40~15:10 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台大専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師: 永弘進一郎先生(仙台大専総合工学科 N3 ユニット)

演題: 天体写真撮影-その変人的世界(君は沼にしずむ音を聞いたことがあるか?)

### 第3回

日時: 令和2年1月29日(水) 14:40~15:10 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台大専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師: 野角 光治先生(仙台大専総合工学科 N1 ユニット)

演題: 演劇-言葉の向こうから

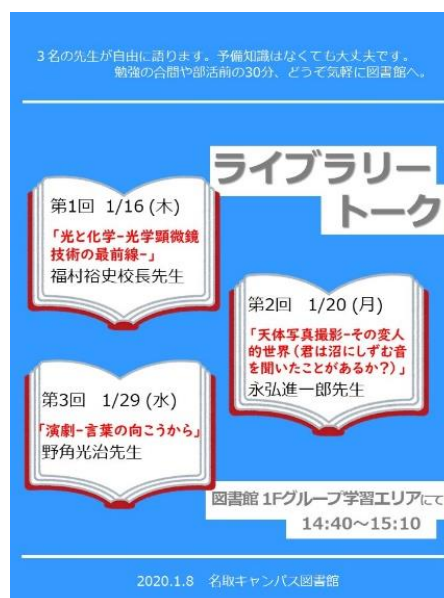


図6 ライブラリートーク 学内周知ポスター

実施済みの第1回について概要を述べる。講師の福村校長先生は「光と化学—光学顕微鏡技術の最前線—」という演題でお話くださった。校長先生には、ライブラリーカフェと同様の内容を短縮してお話しいただきたいと申し出ていたところであった。しかし校長先生は、ライブラリートークが対象とする本校の学生に合わせて、学生が興味を持ちそうな演題での新たなトークをご準備くださった。

当日は本格的なサイエンスカフェとなった。トークの冒頭では、サイエンスカフェの趣旨や発祥の地のサイエンスカフェの様子を説明された。また、本ライブラリートークのために製作した実験道具を用いて、その場で演示実験をしてくださった。

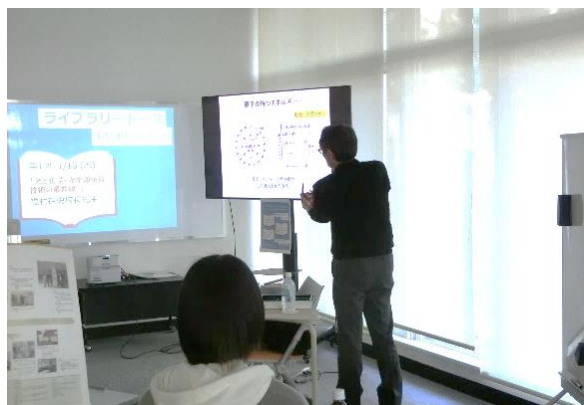


図7 ライブラリートーク 演示実験の様子

## 5. 継続実施に向けて

令和元年度は講師をお引き受けくださった先生方のご協力を得て2回のライブラリーカフェを実施した。また、ライブラリーカフェを継続發展させていくための試みとして、3回のライブラリートークを新たに計画し、一部を実施した。

今後も要望があれば、開催ごとに運営方法を見直しつつ、本校の先生方に講師を引き受けいただき継続する道を探りたい。ライブラリーカフェに加えてライブラリートークも開催する方針を取るのであれば、それぞれの目的や開催形態を検討することが肝要である。そのためには本校の各種行事や自主学習時間帯の新たな運用方法との調整がまず必要となってくるであろう。また、本行事の継続發展の一方法として、今年度の学生によるポスター作成を機に、学生が運営担当者や話題提供者として参加できる形態を検討していきたい。さらに、本校の学生・教職員はこれまでもさまざまな形で名取市図書館

と共同の活動を行ってきたところであるが、この連携関係を通じてライブラリーカフェの価値の向上をはかっていきたいと考えている。

## 謝辞

令和元年度のライブラリーカフェの開催は多くの方々のご尽力により実現しました。記して感謝申し上げます。

まず、講師をお務めいただきました福村裕史校長先生、千葉幸一郎先生に心より御礼申し上げます。また、次世代型教育推進室、学生課、学生会、高専祭実行委員会、ポスターをデザインしてくれた学生、ほか学内の多くのみなさまにお世話になりました。名取市図書館と名取市総務課のみなさまにも御礼申し上げます。そして本行事にご参加くださいました地域のみなさま、本校教職員と学生のみなさんにはまことにありがとうございました。

## 参考文献

- 1) 岡崎久美子, 武田光博, 奥村真彦, 野角光治, 吉野裕貴, 宮崎義久, 谷垣美保, 山木幸一, 加藤文樹, 尾田陽子, 遊佐梨江. 仙台高専なとりライブラリーカフェの開催, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第53号, pp. 17-22, 2017.
- 2) 岡崎久美子, 濱西伸治, 野角光治, 柳生徳高, 吉野裕貴, 荒孝二, 坂本香代, 佐々木敦子, 遊佐梨江. 仙台高専なとりライブラリーカフェの検討, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第54号, pp. 10-17, 2018.
- 3) 岡崎久美子, 窪田眞治, 古内孝明, 柳生徳高, 本間一平, 塚田由佳里, 荒孝二, 坂本香代, 遊佐梨江. 仙台高専なとりライブラリーカフェの改善, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第55号, pp. 22-29, 2019.

## 注記

- 注1) 理化学研究所と編集工学研究所が主催しているプロジェクトに参加し設けたコーナーである。ライブラリーカフェ終了後まもなく「科学道 100 冊 2019」に更新し、希望者にブックレットを配布するなどしている。
- 注2) 「図書館ポイントカード企画」は、図書館の利用を促す試みの一つとして平成30年度に始めた企画であり、利用やおすすめ図書紹介カードの提出でポイントが得られる。ライブラリーカフェ特設コーナーやその他企画展示コーナーの本は、学生の関心を喚起するため付与するポイントを倍にしている。
- 注3) 名取市図書館ティーンズコーナーの展示は次のよ

うに行った。まず夏季休業前に学生に参加を募った。応募学生は、まず本校図書館で名取市図書館の蔵書を検索するなどして展示したい本を選び、おすすめコメントをポップカードにまとめる作業を行った。名取市図書館に所蔵されていないものは本企画のために購入していただくことができた。当日、学生は、図書を市図書館で選び出し、工夫を凝らして図書とポップカードを展示した。展示期間中は、展示した図書の7割ほどの図書が借り出されており、期待を超える反応を得た。なお、借り出された本の展示位置にはポップカードが残されているので、学生が選んだ本の全体像はわかるようになっている。展示は令和2年1月末まで行った。

注4) 記録用ビデオカメラは2台使用している。1台は前方に設置し、講師の撮影を主目的としている。専用マイクを接続し、講師の声もこちらに記録している。もう1台は会場後方に設置し、会場全体の様子の記録と50インチモニターへの映像の投影に用いた。

注5) 資料 アンケート設問(第1回用・第2回用)  
令和元年度 仙台高専なとりライブラリーカフェ  
アンケート

本日は仙台高専なとりライブラリーカフェにご参加下さいまして誠にありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

1) ご所属について

- 本学学生 ( 学年・クラス: )  
 本学教職員( 学科・コース: )  
 学外 ( 保護者・一般・卒業生・大学生・  
高校生・中学生・その他 )

2) カフェの内容はいかがでしたか?

- とてもよかった  
 よかった  
 普通  
 あまりよくなかった  
 よくなかった

3) 開催時期や場所はいかがでしたか?

- 時 期  早い  ちょうどよい  遅い  
時間帯  早い  ちょうどよい  遅い  
長 さ  短い  ちょうどよい  長い  
場 所  狭い  ちょうどよい

4) 今回のライブラリーカフェを何でお知りになりましたか?

- 広報なとり 10/1 号  
 仙台高専ホームページ  
 図書館ホームページ  
 ちらし(高専祭受付・入試説明会・保護者懇談会資料)

ポスター(学内・名取市内: )・仙台市内: )

知人・友人の紹介

昨年の参加者への案内  その他( )

5) 今後もライブラリーカフェが開催された場合、参加したいと思いますか?

- ぜひ参加したい  
 参加したい  
 どちらともいえない  
 あまり参加したくない  
 参加したくない

※次回ライブラリーカフェが開催された場合、案内をご希望の方はご氏名・ご住所をお書き下さい。記入された個人情報は厳重に管理し、目的外に使用いたしません。

氏名: 住所:

6) 今後、ライブラリーカフェで取り上げてほしいテーマがありましたらお書き下さい。

7) ご意見や感想がありましたら、ご自由にお書き下さい。

※アンケートの結果は個人が特定されないよう、集計された形で公表することがあります。